

2020年 12月

図書室より「新着図書」のお知らせ

『一人称単数』 村上春樹

一人称単数とは世界のひとかけらを切り取る「単眼」のことだ。しかしその切り口が増えていけばいくほど、「単眼」はきりなく絡み合った「複眼」となる。そしてそこでは、私はもう私でなくなり、僕はもう僕でなくなっていく。そして、そう、あなたはもうあなたでなくなっていく。そこで何が起こり、何が起こらなかったのか？「一人称単数」の世界にようこそ。

『スキマワラシ』 恩田陸

白いワンピースに、麦わら帽子。廃ビルに現れる「少女」の都市伝説とは？古道具屋を営む兄と、ときおり古い物に秘められた「記憶」が見える弟。彼らは亡き両親の面影を追って、古い「タイル」を探していた。ある日、ふたりはビルの解体現場で目撃された少女の噂を耳にする。再開発予定の地方都市を舞台にしたファンタジックミステリー。

『護られなかった者たちへ』 中山七里

仙台市の福祉保健事務所課長・三雲忠勝が、手足や口の自由を奪われた状態の餓死死体で発見された。三雲は公私ともに人格者として知られ怨恨が理由とは考えにくい。一方、物取りによる犯行の可能性も低く、捜査は暗礁に乗り上げる。三雲の死体発見から遡ること数日、一人の模範囚が出所していた。男は過去に起きたある出来事の関係者を追っている。男の目的は何か？なぜ、三雲はこんな無残な殺され方をしたのか？罪と罰、正義が交差した先に導き出されるのは、切なすぎる真実……。

* 新着本の貸し出しと予約受付は 12/1(火)からです。

* 新着本の貸し出しは、1人1冊。(上下巻は一緒に貸し出しできます。)